

# 新評論

2023

6・7

No.333

発行所 © 新評論 2023年  
 〒169-0051 新宿区西早稲田3-16-28  
 TEL03-3202-7391 FAX03-3202-5832  
 http://www.shinhyoron.co.jp  
 e-mail: shm@shinhyoron.co.jp  
 振替 00160-1-113487 価格税込



著者 (2012年/© Emilie Hermant/提供:株式会社フランス著作権事務所)

生命が居住する地上の薄膜＝「ガイア」に向き合う重要性。名著「虚構の「近代」」の著者が、テレストリアルとしての人類に託した最後の理論書

## ガイアに向き合う

新気候体制を生きるための八つのレクチャー

ブルーノ・ラトゥール／川村久美子 訳

◆ジャンル: 文明論／科学人類学

大気中の二酸化炭素量の持続的増加、生物種の急激な減少など、昨今の状況を見れば地球環境がかつてない激動の時代に突入したことがわかる。もはや「無尽蔵の資源」という想定の下、「豊かさ」を追い求めるこれまでのあり方は維持できない。それは誰もがわかっている。では、近代の夜明け以来続く「進歩の行進」を離脱する道はあるのか。私たちは今そうした立ち往生の状態にある。本書ではフランスの最も著名な知識人ブルーノ・ラトゥールがこの激動状況を新気候体制と定義し、その下での人類のあり方を問い直す。

ラトゥールの議論はこうだ。近代人は世界を「不活性な物質」と「エージェンシー（行為能力）」を持つ「人間精神」から成り立つものと捉えている。それは西欧哲学が説く存在論的違いではなく、単なる概念上の考え方にすぎない。これこそが認識論的呪縛として機能し、近代人のあり方を定めた。一七世紀以来、近代科学の発展の中で新たな自然観——自然を人間世界の外側にある客観的眞実と見なす見方——が築かれ、科学はそれを「明らかにするもの」と見なされてきた。この自然観が、主権国家を中心とする近

代体制を形作ってきた。すなわち「自然」を社会の最高位の権威として君臨させ、「自然」に従えば人々の間に自ずと合意が生まれると言わせた自然観である。この考え方が政治を無用視し、近代人を盲目にさせ、「豊かさ」をひたすら追い求めるよう促してきた。実際には、近代人は本来の地球など見ておらず、客観的眞実を内在化させた世界だけを見ていたにすぎない。だからこそ無制限な土地利用（収奪）が許されると思ひ込み、結果的に地球というテリトリー（領土）に対する全面戦争を繰り広げるに至った。今こそ、本来の地球、すなわち生命が居住する地上の薄膜「ガイア」に向き合い、テレストリアル（地上的存在）としての人類のあり方を選択すべきだ。こうラトゥールは主張し、私たちが描いてゆくべき青写真を提示する。（かわむら・くみこ 環境社会学／科学社会学）

ISBN978-4-7948-1242-1 7月下旬刊  
 A5上製 予五〇〇頁 予五七二〇円

ブルノ・ラトゥールの本(訳:解題川村久美子)  
 虚構の「近代」 8刷 三二〇円

評 地球に降り立つ 2刷 二四二〇円  
 好 新気候体制を生き抜くための政治

著者 1947～2022。ホルベア賞、京都賞受賞など、世界的影響力を持つフランスの哲学者・人類学者。アクターネットワーク理論(ANT)の旗手として著名だが、1992年に「虚構の「近代」」を上梓して以来、ライフワークとして近代文明の批判的検討を行った。著書多数。



著者近影 (Twitter@PjThinker  
より)

世界人口の7割が独裁国・地域に住む現在、自由主義・民主主義の行く末は何か?リベラルな平等主義の意義を再説する古典的名著

# リベラリズム

## リベラルな平等主義を擁護して

ポール・ケリー

佐藤正志・山岡龍一・隠岐理貴・石川涼子・田中将人・森達也 訳

◆ジャンル:政治理論/政治哲学

本書はリベラリズムの理論を語り直し、擁護しようとする。なぜ改めてリベラリズムを擁護する必要があるのだろうか。著者は、外的脅威への恐怖があらゆる政治的争点を棚上げにしている世界において、ヘリベラルな平等主義の原理を再提示し、政治権力や多数派の世論による専制に抗する規範的な理由付けの力を取り戻すことがかつてなく重要であると述べる。この立場の核心には、最も価値をもつのは個人の人格であり、そのことは万人の人格が等しく尊敬を受けることによつて具体化されなければならないという思想がある。

コロナ禍や侵略戦争、分断や格差が他者に対する憎悪と恐怖を掻き立てている今日、リベラルな平等主義の理論的擁護の重要性はいっそう増している。すべての人格は「平等な配慮と尊敬」をもって扱われなければならないという理念は、個人の道徳的価値と現代の民主的な社会における多元性を両立させることのできる政治原理と政治秩序構想の探究を産み出してきた。それが、ジョン・ロールズ

の『正義論』以来五〇年にわたって展開されてきた政治的リベラリズムの政治哲学である。

本書は、その淵源をJ・S・ミルやカントに辿ると同時に、もっと最近の政治理論の展開から理論的な強化を図ってゆく。同時に、この間につきつけられてきた批判、例えばコミュニタリアリズムや多文化主義からの批判、あるいはグローバル化という観点からの批判に真剣に応答しようとする。そのようにして著者は、リベラルな平等主義の意義と生命力を再確認することになる。

二〇世紀終盤、ベルリンの壁の崩壊とともに謳われたリベラリズムの勝利は、自由とデモクラシーが危機におかれているいま、歴史の「終わり」(end)ではなく、歴史の「目的」(end)であったこと、そしてリベラリズムを擁護する規範的な理論がなお必要であることを本書は教えてくれる。(きんぎょ・せいし 早稲田大学名誉教授)

ISBN978-4-7948-1245-2

7月下旬刊

四六並製 予二六四頁 予三〇八〇円

著者 Paul KELLY ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス政治理論の教授。ベンサムや功利主義の研究から出発し、英国の政治思想やロールズ以後の現代政治理論に関して多くの著作を発表。邦訳にD・パウチャーとの共編著「社会契約論の系譜」(ナカニシヤ出版、1997年)など。



原書表紙

新方針を「絵に描いた餅」で終わらせないために。「一人ひとり  
をいかす教え方」の達人が説く「生徒中心の学び・教室」のつくり方

# みんな羽ばたいて

生徒中心の学びのエッセンス

キャロル・アン・トムリンソン

飯村寧史・武内流加・竜田徹・谷田美尾・吉田新一郎 訳

◆ジャンル:教育

新しい学習指導要領の実施、GIGA スクール構想による「一人一台端末」の実現など、まさに日本の学校や教育は過渡期を迎えているといえます。しかし、テストの結果ばかりを「学力」と捉える風潮は相変わらず根強く、学力観の転換はなかなか進んでいないように感じます。いまだに授業は教科書中心であり、テストで良い点を取るための勉強が中心です。端末の活用にしても、テスト結果に直接結びつく効果は期待できないため、「あまり力を入れたくない」という教師の声をしばしば耳にします。新方針のもとで生徒の主体的な学びをより進めていく意思はあるし、実践も少しずつ広まってきたてはいるものの、全体的には学校現場での進捗は芳しくないようです。このままでは新たな構想も「絵に描いた餅」で終わってしまいます。それを回避するためには、改めて「生徒中心の学習とは何か」、「具体的に何をどう実践すればいいのか」を包括的に示す手引きが必要です。本書は、筆者独自の「一人ひとりをいかす教え方」を通して得た知見に基づいて、豊富な資料や実践例を挙げてその具

体的な方法を説明しています。とくに図表や問いかけが秀逸で、自分の授業を振り返り、チェックするポイントを見定めるのにとっても役立つと思います。

長年の経験に裏づけられた筆者の教育哲学が語られ、読んだ人はきっと教育観が変わり、日本の教育のあり方をアンラーンすることになるでしょう。文科省が提唱する「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学び」「協働的な学び」についても、ただ字義通りに捉えるだけでなく、生徒を中心とした、血肉の通った教育の営みとしてじっくり考えるヒントを与えてくれるはずです。ぜひ一読ください。(いいむら・やすし 仙台市公立中学校教頭)

ISBN978-4-7948-1243-8

6月下旬刊

四六並製 三四八頁 二七五〇円

学びの中心はやっぱり生徒だ！

「個別化された学び」と「思考の習慣」

B・カリック+A・スムダ

中井悠加 田中理紗 飯村寧史 吉田新一郎 訳

好評刊

教師の生き方、

今こそチェック！

「あなたが変われば学校が変わる」

A・ハーバー/飯村寧史・吉田新一郎 訳 二六四〇円

著者 Carol Ann TOMLINSON アメリカの教育者。著書、講演多数。教育における生徒の個々のニーズを満たす手段である、「一人ひとりをいかす教え方」で知られている。邦訳に「ようこそ、一人ひとりをいかす教室へ: 「違い」を力に変える学び方・教え方」(山崎敬人・山元隆春・吉田新一郎訳、北大路書房、2017年)「一人ひとりをいかす評価: 学び方・教え方を問い直す」(同上訳、北大路書房、2018年)。

「心理的安全性」が確保された学びのコミュニティを目指すすべての先生へ。SELと教科学習を統合する最新アプローチ

# SELを成功に導くための5つの要素

エンゲージ・ティーチングの実践に向けて(仮)

ローラ・ウィーヴァー+マーク・ワイルディング  
高見佐知・内藤翠・吉田新一郎 訳

◆ジャンル:教育



図解:エンゲージ・ティーチングの基礎にある5つの要素

最近、巷で「心理的安全性」という言葉をよく耳にします。一人ひとりが自分らしく居られ、安心して率直に自分の考えや意見を表明でき、それを周囲の仲間を受け止めてもらえる状態を指します。教育界でも、この心理的安全性と学習効果の相関性が注目されつつあります。教育現場に立つ一人として、教師の在り方や教育実践の手法がガラリと変わるような転換期を迎えていると感じます。とはいえ、情熱をもって仕事に向き合っている教師ほど、こうした教育界の新しい動きに直面し、その重圧を受けて立ち竦んでしまっているのではないのでしょうか。

本書は、そんな教師をエンパワーする二つの魅力をもっています。一つ目は、私たち教師自身の意識と実践の変革が、同僚たちとの良好でサポートティヴな関係性や健全で安心安全な職員室の創造につながるということ。私たちが毎朝、ポジティブな気持ちで職場に向かう姿こそ、いま最も生徒に必要なことなのかもしれません。

二つ目は、教室の中で、真に意義のある学びを届け、生徒たちが自ら豊かな学びの旅へと向かっていけるような、具体的に即効性のある教育実践が豊富に紹介

されていること。本書のタイトルにも含まれる「エンゲージ」には、「夢中で取り組む」という意味の他に「結びつける・統合する」というニュアンスも含まれます。SEL(感情と社会性を育む学び)と教科学習を、心と知性を、教える内容と背景を統合し、生きるうえで大切な感覚を養う教育的アプローチが「エンゲージ・ティーチング」です。

生徒が目的に満ちた意義深い人生を送れるようにと願い、日々腐心されている先生方に、ぜひ手にとっていただきたい一冊です。生徒たちが自らの個性やエージェンシー(主体性)を發揮し、伸びやかにそれぞれの学びに向かっていける、そんな教室が日本の中にたくさん増えることを願って。(協力者 佐野和之/かえつ有明中・高等学校副校長)

ISBN978-4-7948-1244-5 7月下旬刊

四六並製 四一六頁 予二九七〇円

学びは、すべてSEL

〔教科指導のなかで育む感情と社会性〕  
N・フレイ+D・フィッシャー+D・スミス  
山田洋平・吉田新一郎 訳 二七五〇円

好評刊

成績だけが評価じゃない

〔感情と社会性を育む(SEL)ための評価〕  
S・サックシュタイン  
中井悠加・山本佐江・吉田新一郎 訳 二六四〇円

著者 Laura WEAVER 非営利教育組織PassageWorks Institute共同代表。SELと学力向上を統合した画期的なアプローチを開発。Mark WILDING 同PWI共同代表。就学前教育から小中高校までのカリキュラムや教員研修プログラムの開発、講演、講義、ワークショップを担当。

# ワイルド・アイデア

E・ケルシー(文) / S・キム(絵) / 光橋翠訳

〔自然のなかにひらめきをみつけにいこう〕 感性豊かな文章と美しいジオラマで描くエコロジー絵本・第二弾！  
B5変上製 三六頁 一七六〇円



# ぼくはぼく

S・ウェルデ(文) / P・レイノルズ(絵) / 島津やよい訳

「ありのままの自分」を全面肯定し、愛するために。他人との比較や自己否定に病む現代人の心を温かく励ます「個性讃歌」。  
A4変上製 三三二頁 一三三〇円



# 知泉源氏 3

杉村喜光

〔完訳漫画「源氏物語」〕 年齢性別を問わず、誰にでも面白く読める初めての完全漫画訳、波乱の第3弾！  
A5並製 三四四頁 一四八五円



# 知泉源氏 4

杉村喜光

〔完訳漫画「源氏物語」〕 (だいぶ昔の) 天皇推薦図書!? 初めての完全漫画化作品、面白くなる一方です！  
A5並製 三三八頁 一四八五円



# さらば学力神話

磯村元信

〔ぼうず校長のシン教育改革〕 NHK「クロ現」等で紹介され話題、課題集。中校の元名物校長が語る「真の学び」。  
四六並製 二八〇頁 二二〇〇円



# ざんねんな読書指導

有馬心一朗

〔スマホから「子どもの人生」を守った物語〕 数々の実話から読書の真の価値と適切な指導法を探る。  
四六並製 二二〇頁 二二〇〇円



# やってよかった 育児パパ

谷沢英夫

〔日本人のパパがスウェーデンでたどり着いた男女平等教育〕 50年にわたる在住経験で体感した北欧ジェンダー先進社会。  
四六並製 一九二頁 一九八〇円



# スウェンスカ・ヘムの女性たち

太田美幸

〔スウェーデン「専業主婦の時代」の始まりと終わり〕 生活・政治・ジェンダー平等を結びつけた女性たちの挑戦。  
四六並製 二三四頁 二四二〇円



蒲敏哉

『クライメット・ジャーニー——気候変動問題を巡る旅』

## 脱炭素・脱原発社会への道筋を問う

■「クレヨンハウス通信」2023年5月号

「Woman's EYE」

「気候危機」取材30年の元東京新聞社会部記者が、自らの

取材人生の足跡を辿り、ポスト

ト・ウクライナ戦争へ向けた

脱炭素・脱原発社会への道筋

と、その実現の為の思考の形

を等身大の視線で描いた好著。

国際交渉の舞台裏、沖縄辺

野古、南洋島嶼国、欧州、東

京……。真実追求の現場報告は

そのまま地球Ⅱ大地に生きる

非戦の思想へと一直線に読者

を誘う。

ご自身の子育てエピソード、

小松左京氏や宮崎駿氏へのインタビューなど盛り沢山。

クライメット・

ジャーニー

蒲敏哉

「気候変動問題を巡る旅」 数々のグ

ローカルな「現場」へ読者を誘い、気候・

環境問題を等身大の視線で見つめる旅。

四六並製 一三四頁 一九八〇円

「朝日新聞」他紹介

ISBN978-4-7948-1233-9



## 本を売る

## お馬が走る

春のGI真っ盛りですね。いえ、京都のいち書店員のChat GPTに「本を売る」と入力したら「お馬が走る」と変換してきたんです。堪忍え。

競馬は競馬場というフィールドで馬と騎手が一体となって繰り広げるスベクタクルドラマ。ただし万馬券を夢見たが最後、馬券道を究めるべく人生最高レベルで脳内フル回転させる人間は数知れず、という罪作りの世界でもあります。例えば馬の個性に応じてその能力を最大限に発揮するのが騎手の役割だとすると、結果に影響する馬と騎手の役割の比重は7対3?とか検討したりして。

ではこれを書店で繰り広げられるドラマに当てはめると、本と書店員の果たす役割の比重はどんなものだろうか? ベストセラー作家の本や今が旬といった話題書は、跨っているだけで楽勝でした。またいな強い馬の様で書店員にはあまり出番が無いし、加えてあとは素朴なデータに基づいた優秀な本を仕入れましょうとくれば、私、一分くらいはお役に立ててますかね

え、ほげほげと相成ります。

書店が収益をテーマにして資本主義というがちの地盤の上に築かれたフィールドである限り、本は常に代替商品で、書店員は既にお荷物なのかもしれません。

競馬の場合、その意味の場では馬は競走馬、経済動物として語られて、でもそれは自身が経済動物として関わる人間が発する言葉。それによって個々の馬生が大きく左右されます。

競走は、共走であり、共創である。このドラマのためにフィールドを創るとき地盤から見直す必要がある。その佇まいが気になったり、ふと見せる表情に惹かれる瞬間があったり。そんな生物として一冊一冊の本が存在している。今のフィールドでも、何気に居場所を変えたりふと閃いて別のパートナーと一緒にしてみると、あら不思議売れたじゃないの! という事は日々ありますよね。こんな心もちからドラマが始まる。それが万馬券の秘訣! いや持続可能な書店への道しるべなのかもと思うこの時季なのです。

京都大学生協ブックセンター

山下貴史

本誌表示価格はすべて税込です。

## ●書評 ●紹介 ●関連記事

## 書評日誌 (1・25~2・15)

- 1・25 ㊟熊谷高校同窓会だより『脱原子力 明るい未来のエネルギー』(著者談)
- 1月号 ㊟かがやき(歯科医向けフリーマガジン)『東アジアの高齢者ケア』『オランダ・ミラクル』
- ㊟社会科教育『社会科ワークショップ』(永井健太)
- ㊟保育の友『幼児から民主主義』
- ㊟In Red『おやつギャグつめあわせ』(著者寄稿)
- ㊟科学史研究『「価値」を否定された人々』(相馬尚之)
- 2・7 ㊟週刊エコノミスト『田んぼの中のコーヒー豆屋』(著者インタビュー)

- 2・14 ㊟毎日新聞『「私の旅」パレスチナの歴史』(大治朋子)
- 2・15 ㊟中央大学2023年度入学試験問題(国語)『野蛮への恐怖、文明への怨念』
- 2023年冬号 ㊟rivière(武庫川女子大学通信)『ビヨンド!』

『北海道新聞』他紹介  
ISBN978-4-7948-1227-8



〔東川町で起きた八年間の奇跡〕  
人口増加数道内1位の町で現在形で日々起きている奇跡の物語とは。  
四六並製 三二二頁 一九八〇円

田んぼの中の  
「コーヒー豆屋」  
書田紗世

## 本を読む

さらば学力神話

「高校あるある」のオンパレード、現役教員にとってはバイブルになる一冊である。筆者は泥臭く生徒に寄り添い続ける情熱の持ち主。現場はこういう管理職を求めている。ブラック職場と敬遠せず、高い志を抱く教員志望の学生諸君にもぜひ一読願いたい。(岐阜市 高校教員 今尾吉宏 52歳)

きみは星のかげら

地球の誕生から生命の進化、人間の身体の仕組み、環境とのつながりまでが象徴的なイラストとともに描かれていてわかりやすいです。文章も詩的で読みやすいものでした。比喻表現の部分を子どもたちと一緒に考える授業展開を考案中です。シリーズ続刊「ひとりじゃないよ」が食物連鎖や酸素生

成の仕組みを扱っているようなので期待しています。(香取郡 教員 小山茂雄 62歳)

現代社会用語集

軽快な文章から、じんわりとユーモアがにじみ出ていて面白い。「え？ そうかな？」と思いつつ読んでいって、最後に「あ！ そうか！」と納得させられる「してやられた感」があつて、たいへん小気味よかったです。ありがとうございます。(相模原市 会社員 木村健一 53歳)

## 好評刊

動物の足跡を追って

バティスト・モリソ / 丸山亮訳 二六四〇円

きみは星のかげら 一七六〇円

E・ケルシー(文) / S・キム(絵) / 光橋 翠訳

増補版 現代社会用語集

入江公康 一八七〇円

「NHKから国民を守る党」とは何だったのか?

選挙ウオッチャーちたい 一六五〇円

## 編集部から

ソ連崩壊を経てF・フクヤマが「歴史の終わりを著し、「自由民主主義の最終勝利」を予言してから三〇余年、状況は完全に塗り変わってしまった。いまや人類は核戦争の脅威、気候危機、新自由主義による貧困・格差・各種分断の亢進、極右ないしネオリベ軍産複合体の暴政に苛まれて息絶え絶え、リベラルというスタンスは論争含みの危うい立場となりつつある。新刊『リベラリズム』は、「歴史の終わりの言説」が席巻し、グローバル化の一つの異論/応答として、「自由主義という不安定な成果」をたゆまず語り直し、守り続けることの意味を探究した現代政治理論の古典。政治理論の使命、リベラル思想の可能性、そして現下の危機的状況の政治的解決といったテーマに関心のある皆様、ぜひ一読を。

## 営業部から

▼直近3ヶ月(2023年2月~4月)弊社のアマゾン売上ベスト15をご紹介します。

- ①「NHKから国民を守る党」とは何だったのか?
- ②感情と社会性を育む学び(SEL)
- ③長寿ファミリー企業のアントレプレナーシップと地域社会
- ④たった一つを変えるだけ
- ⑤増補版 現代社会用語集
- ⑥スウェーデンの小学校社会科の教科書を読む
- ⑦プロジェクト学習とは
- ⑧最高の授業
- ⑨生のための授業
- ⑩ぼくは、にんげん
- ⑪学びは、すべてSEL
- ⑫さらば学力神話
- ⑬ギヴァー 記憶を注ぐ者
- ⑭虚構の「近代」
- ⑮開発との遭遇

## SBC(新評論ブッククラブ)のご案内

会員は送料無料！各種特典あり！お申し込みを！

当クラブ(一九九九年発足)は入会金・年会費なしで、会員の方々に弊社の出版活動内容を紹介する月刊PR誌「新評論」を定期的に送料無料で送付しております。入会登録後、弊社商品に添付された読者アンケートハガキを累計5枚お送りいただくことで、全商品の中からご希望の本を1冊無料進呈する特典もございます。ご入会希望の方は小社HPフォームからお送りいただくか、メール、またはハガキにてお名前、郵便番号、ご住所、電話番号を明記のうえ、弊社宛にお申し込みください。折り返し、SBC発行の「入会確認証」をお送りいたします。